

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部 2024 年度秋季講演会 ～シリーズ岩手を知る（第 31 回）～ 「ツキノワグマ出没の現状と対策」 ～クマが暮らす岩手の自然と私たち～（CPD 番号 5-12）
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	2024 年 10 月 12 日（土）15:00～16:45
場所	プラザおでって おでってホール（〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1 丁目 1-10）
参加人数等	61 名（会場 54 名、WEB 配信視聴 7 名）

活動内容

●講演内容

【講師】

盛岡市動物公園 ZOOMO 園長・盛岡市都市整備部公園みどり課獣医主査 辻元恒徳氏

講師は盛岡市の動物公園開園準備を経て、平成元年の開園以来、獣医師として動物たちの診療防疫に従事すると共に、里や街に出没する野生動物の捕獲や調査など、動物たちと奮闘しつつ、平成 23 年から動物公園長も務める。

【講演要旨】

講演では、ツキノワグマの生態は、肉食から豊かな森での植物食中心へと進化。しかし、近年、山里や街中への出没が多くなり、人身被害の恐れもでてきている。これは、山から下りてくる野生動物と我々との関係について考えること、つまり、人と野生動物との共生を維持すること「せめぎ合い」のバランスであることを強調した。山林・山里の利用形態変化や生活様式・食文化の変化により、生息域の拡大・畑被害・街中への侵入で、現在「人は野生動物に負けている!？」と言われる。クマとの共生は環境保全と被害防除のためで、仲良く平和にではないこと、「被害防除」と「共生」は相反する課題ではない!と力説。野生動物保全・野生動物との共生とは、人間も含めて生態系の構成要素であり、概念として「生物多様性」の保全である。生物の多様性＝生態系の構成と維持であり、それぞれの種が複数の連鎖を持ち、生態系は連鎖の微妙なバランスにより保たれている。人と動物、そして自然環境（生態系）は相互に繋がっている。そして、多くの動物が暮らす、岩手の豊かな自然は、「自然に向き合う風土」が残る素晴らしい地域であり、葛巻高原牧場、荒川高原牧場、安比高原牧場など、地形を生かした、山と谷が作り出すランドスケープがある。ワンワールド・ワンヘルス＝「人と動物が共存して生きる社会」は、自然豊かな岩手には昔からある。古代から陸奥の名馬である「南部馬」の産地であったこと、最近では、絶滅危機にあるイヌワシが 32 ペア（国内最多：盛岡市内にも）生存が確認されている。最後に、日本人の自然観（動物観）について、それは縄文時代の原始宗教観であり、「自然の恵」命を食べて生きること、自然環境の変動と循環（生命の循環）を守ってきた。そこには、神の信仰があり、輪廻転生の世界観でもあった。日本古来の狩猟文化も、自然に対する向き合い方「せめぎ合いながらも共生する暮らし方」であった。岩手の大地と空のもと豊かに暮らしてきた古来の人々に想いを馳せながら、「人と自然の関係性」が重要であると締め括った。

※2023 年 4 月 20 日に、動物公園がリニューアルオープンした。

※新・動物病院をつくりたい！是非、ご理解とご協力をお願いする。



古山支部長の挨拶



講師の辻本恒徳氏

（文責 川野好宏）